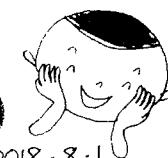


ゆりかご園たより



2018.8.1

2期(6~9月)のねらい カラダづくり活動を通して子ども関係の質を高めよう

〇歳児クラスが昼食をとっていた時のことです。保護者から担任に電話がかか
り、短い間でしたが私がテーブルにつきました。1歳を過ぎたSくんとRくんは、私
を見て“あれ? どこで見たことがあるな。この人もゆりかごの先生だよな”という感じで、
交代しても変わらぬペースで食べ続けていましたが、9ヶ月のSaくんは、“え、ボクの好
きな先生はどこに行きたの?”とばかりに激しく泣きました。10ヶ月のTちゃん
は、私が離乳食をスプーンで口に運ぶと食べますが、表情はかたく、電話から戻
った担任保育士を見たとたん、安心したのか泣きました。我慢していたようです。

4月、入園したばかりの頃はみな、大好きなお父さんお母さんと離れるのがつら
くて泣いていました。今では安心できる大好きな大人ができる。(たいていの場合は
担任保育士)その大人との信頼関係を支えに、モノやヒトに関心が広がり、
保育園生活が楽しくなってきています。

子どものことはにぎらないじの動きを受けとめ応える関わりを大切にして、
乳児期の保育が、子どもの自尊感情や自己肯定感を育てていきます。幼児期
では、学年期に培った力を土台に生活や遊びを通して仲間との関係を育んでい
きます。自己主張することや我慢することなども学び、遊びをより楽しくする
ため、生活をより豊かにするために、自分たちでルールを作りだしたり、もめごとも自分
たちの力で解決しようとします。

先日は、1歳児クラスの5~6人が集めた様子で事務室にいた私をよびに来まし
た。大変なことが起きたというのです。何事かと急いで部屋へ行くと、冷水の
入った容器からコップに水を注ぎ、涼しい顔でKくんとMくんが水を飲んで
いました。話しかけると、早く飲みたいKくんがまだ注いでいるMくんの手を
つかねたのだそうです。当の二人はこの騒ぎに不思議そうな表情。もめている
様子もありません。二人の間に起きたことがもしかしたら大げんかに発展するか
も?と思、たちたちがリタマ先走ったようでした。結果大人の出番はありませんで
したが、大人の力を借りながら解決のしかたを学んでいくためには、友だちに無
関心ではいられません。先走る子どもたちに、ほほえましさと束縛もじを感じました。

学年も幼児も人ととの関わりの中で“どんな姿を見せてくれるのか”今後が楽しみです